

首里城復元の取組について

令和6年5月

首里城復元に向けた取組

- 首里城は、琉球の建築文化や技術の粋を結集した城郭で、琉球王国時代（1429～1879年）は王宮・王府として使用。1925年に正殿が国宝に指定。1945年の沖縄戦で焼失。
- 首里城復元の機運を受け、沖縄復帰記念事業として行う国営公園事業として、平成4年に正殿等を復元。平成12年に世界遺産登録。令和元年10月の火災で正殿等9棟の建物が焼失。
- 現在、首里城復元のための関係閣僚会議(議長:内閣官房長官)で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、令和4年11月に首里城正殿の本体工事に着工し、令和8年の復元に向けた取組を進めている。

首里城の状況



首里城正殿（火災前）



▲火災直後



現在（R5.11）の様子▶

首里城復元のための関係閣僚会議

首里城正殿等の復元に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、政府一体となって対応するため、首里城復元のための関係閣僚会議を開催。第4回会議（令和2年3月27日）において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を決定。

首里城正殿等の復元に向けた工程表（抜粋）

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達の変動等の反映の観点で踏まえ工程を定めることとする。

首里城正殿について、令和2年度（2020年度）早期に設計に入り、令和4年（2022年）中には本体工事に着工し、令和8年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め（中略）復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

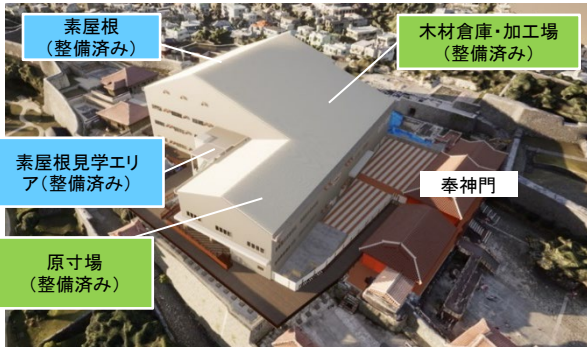
首里城復元のための関係閣僚会議 構成員

議長	内閣官房長官
副議長	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） 国土交通大臣
構成員	総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣

令和5年度の首里城復元に係る取組

- 復元中の正殿を風や雨から守る素屋根が8月に完成。
- 「見せる復興」の一環として、正殿の整備状況を間近で見学できる素屋根見学エリアを8月26日より公開。
- 正殿の柱の軸組工事は、9月に開始し、12月末に完了。
- 令和5年度の技術検討では、試作瓦の製作状況を踏まえた色味や瓦の形状、金型の確認、塗装の仕様、北殿・南殿等の防災・防火対策、正殿復元以降の復元順序や全体基本計画の検討等を実施。

○木材倉庫・素屋根のイメージ

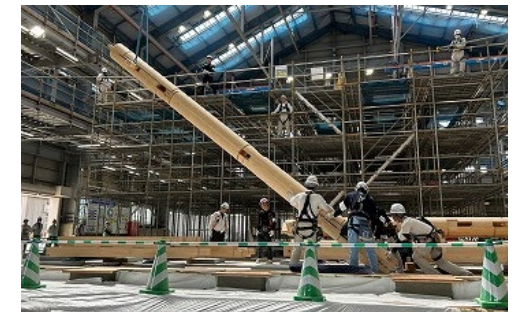


○技術検討 正殿復元以降の復元順序の検討 (北殿の復元から着手等)



正殿復元時の
首里城イメージ

○柱の建方開始



柱1本目のつり上げ

○素屋根見学エリア

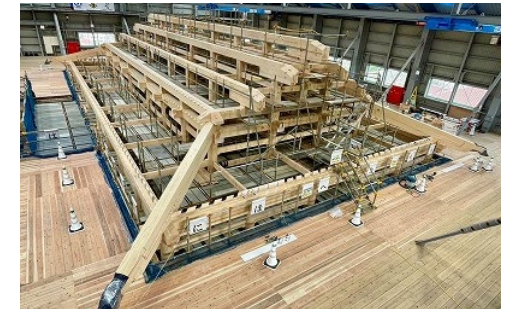


見学エリア1Fの様子



北殿・御庭
復元時の
首里城イメージ

○軸組建方完了



軸組建方が完了 (12/25)

令和6年度の首里城復元に係る取組予定

- 正殿については、野地板(屋根材の下地)等木工事の施工が進み5月末に屋根廻り組立工事が完成し、主な構造部材の設置工事が完了予定。その後、順次、赤瓦葺き工事、塗装、唐破風廻り造作工事等を開始予定。
- 素屋根見学エリア(1階～3階)等を活用し、正殿の工事の進捗に応じた展示の充実等を行うことで見せる復興を引き続き推進。
- 正殿完成後に整備を行う北殿の基本設計に着手予定。

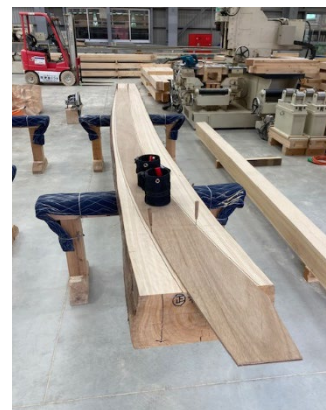
○現場の状況(R5.11.1撮影)



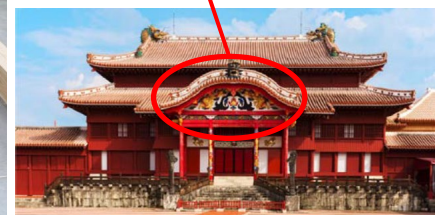
○正殿3Fの現状(R6.3.28撮影)



○木材加工(唐破風部)



正殿の唐破風



正殿の復元概要

○「首里城復元に向けた技術検討委員会」での検討を踏まえ、現在進めている正殿の復元概要

○建築概要

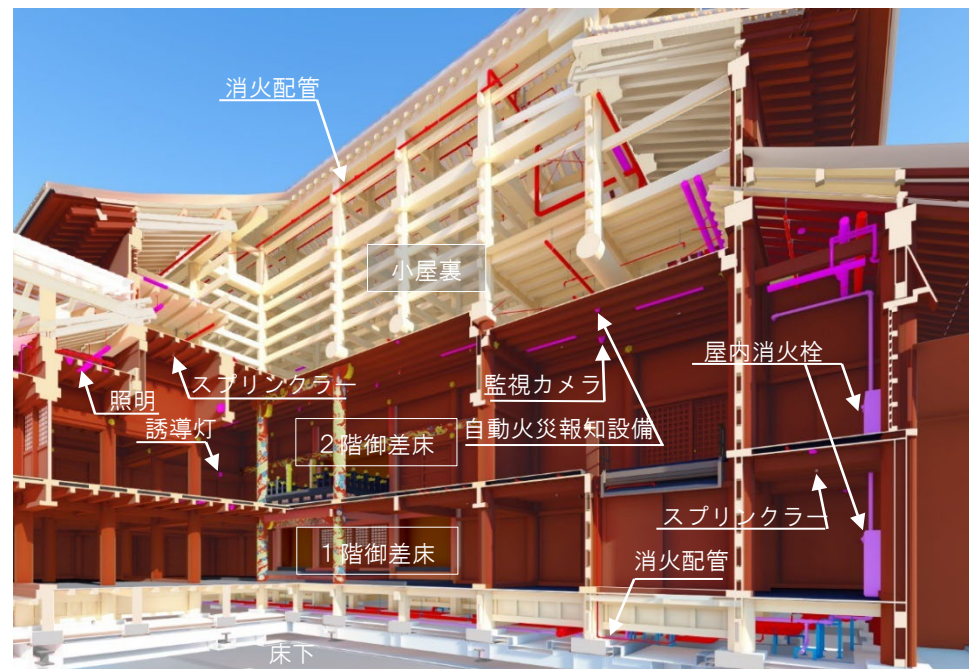
建築物の名称	首里城正殿
構造形式	木造重層3階建て、入母屋造、本瓦葺き
建築面積	636.56㎡
延べ面積	1199.24㎡ (1階516.86㎡、2階516.86㎡、3階165.52㎡)

○正殿の復元の主なポイント

＜防火対策の強化＞

(主な防災・防火設備)

- ・ 火災感知器と連動し、自動巡回して火災を映す監視カメラ
- ・ 誤作動防止機能付きのスプリンクラー
- ・ 消火用の水を城郭内に送る連結送水管
- ・ 1人でも使える易操作性の屋内消火栓
- ・ 煙の濃度に合わせ感知できるアナログ式煙感知器 等



正殿内部の主な防災・防火設備

＜材料調達の様子の状況の変化等の反映＞

- ・ 構造材は国産ヒノキを原則とし、一部にイヌマキ、オキナワウラジロガシを使用。台湾産ベニヒを彫刻材に使用。
- ・ 赤瓦には、沖縄本島産の材料を使用するほか、一部に正殿の破損瓦を粉碎（シャモット）して再利用。
- ・ 彩色・彫刻は、塗装材に久志間切弁柄や久米赤土、石彫刻に細粒砂岩を始めとした県産の材料を活用。



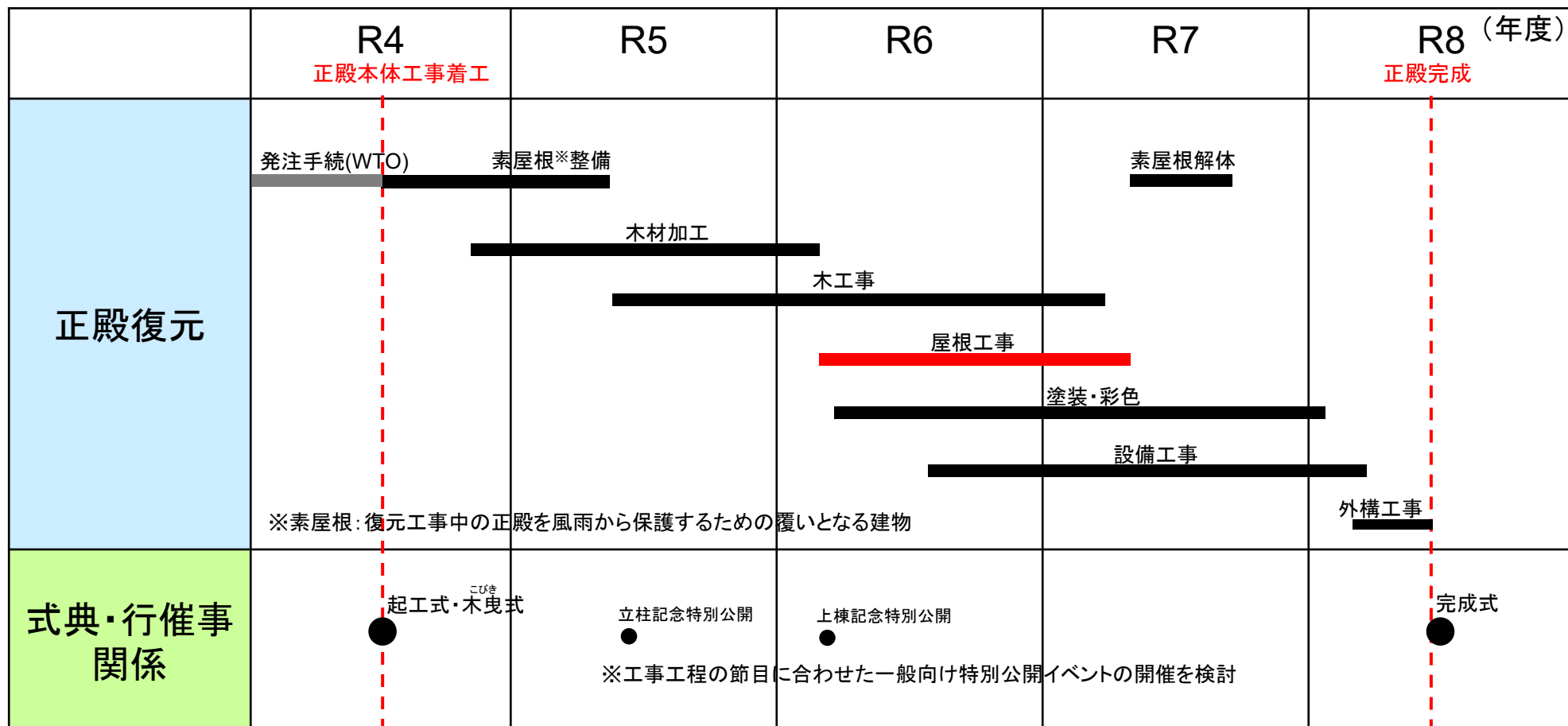
県内瓦組合にて
焼き上がった赤瓦



久志間切弁柄
(試し塗りの様子)

正殿等の復元に向けた今後のスケジュール

- 首里城正殿は、令和4年11月3日の起工式を経て本体工事に着工し、令和8年秋に完成予定。工事期間中は復元工事の過程の公開等を実施。
- 令和6年5月末には屋根廻り組立工事が完成し、これまでの技術検討を踏まえて製造された沖縄県産の赤瓦葺き工事に着手。



【参考】首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

(年度)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9 以降
正殿	材料調査 (大径材)		<u>市場調査</u>					令和2年3月27日 「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(抜粋)		
	設計		<u>基本設計</u>	<u>実施設計</u>						
	木材調達 (大径材)			<u>調達・乾燥</u>						
	工事	<u>仮設道路</u> <u>がれき撤去</u>		<u>木材倉庫</u>	<u>発注手続(WTO)</u>		<u>本体工事</u>			
北殿、南殿等			<u>撤去</u>	<u>正殿復元の施工ヤードとして使用</u>						
			<u>検討</u>						<u>工事</u>	